

# 天王森通信

2020年10・11・12月号 No.108 発行 天王森泉公園運営委員会

写真「天王森泉公園の館と田んぼの稲穂」

## 《秋を迎えて》

公園の森の方から多くのせみの鳴き声がだんだん聞こえなくなってきました。その代わりに、コウロギやすす虫などのなき声が聞こえるようになりました。時たま、1匹で小さく弱々しい声で鳴いているせみの声を聴くと、心の中では「まだ、せみが生きているのだ、がんばれ」と応援していました。公園前にある田んぼの稲穂の色が緑から黄色にゆっくりと変わり、稲穂も天に向かっていたのが、大地の方におじぎをしています。公園前の風は、今の時期は、南から北に向かって吹く為、稲の穂は北に向いていますが、先日の台風の影響で、強い北風が吹いたため、稲の穂は全部南に向きました。また、ちょっと強い南風が吹くと北向きに戻ることでしょう。

この田んぼの中の道路を歩くと、田んぼの香りと言うか稲の香りと言うか分かりませんが、さわやかな風と共に香りがします。私にとって、とても心地良く、落ち着く香りです。もし、興味が有りましたら来園の際、香りを感じてみてはいかがでしょうか。

運営委員会会長代行 角本 等

## ひっつき虫

秋になると“ひっつき虫”が森や野原に大量に発生します。子供たちに聞くと「あああれね」とすぐわかりますが、草はらを歩いたときに洋服にたっぷりついてくる“アレ”は植物のタネです。植物にとって大事なことは、子孫を残すこと。動物と違って動くことのできない植物は、風に飛ばされたり、鳥に食べられたりといろいろな方法で広くタネをまき散らします。人間や散歩の犬たちも植物に利用されています。野の花会 by:風露草

【天王森泉公園のひっつき虫たちです】



フジカンゾウ(実の表面にカギ状の毛が密生)



ヌビトバギ(実の表面にカギ状の毛が密生)



ミズタマゾウ(実にカギ状の毛がある)



キンミズヒキ(実にカギ状のトゲがある)



アメリカセンタングサ(先端の2本は逆刺)



コセンタングサ(先端の3~4本は逆刺)

天王森泉公園行事カレンダー  
(予定) 詳細はホームページ  
を参照ください。

※本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、行事の中止及び内容を変更する場合がございます。

中止「稲刈り体験」10月17日(土)  
小学生以下、9:30~12:00

中止「新そばまつり」10月25日(日)  
そば打ち有志が奉仕する新そば  
まつり

「天王森まつり」11月15日(日)  
公園開園記念行事 内容と規模縮小  
黄色いハンカチ作戦、焼き芋配布など

「天王森餅つき」12月6日(日)  
公園前の田んぼでボランティアが育てた、もち米の収穫祭。内容と規模縮小  
もちの予約販売のみ(前売券販売)

「春の七草竹鉢作り」12月20日(日)  
春を飾る七草に触れ、文化を体験

「百人一首かるた遊び」1月24日(日)  
古民家での百人一首かるた会

「節分豆まき」2月3日(水)  
良い春(年)を迎える行事

「第14回吊るし雑展」  
2月7日(日)~3月7日(日)(予定)  
古民家と吊るし雑の競演。「泉区吊るし雑アート」手作りの作品展示会。

「冬の野鳥観察会」  
2月11日(祝・木)公園周辺の野鳥観察。参加予約制

「しいたけの菌駒打ち体験」  
2月28日(日) 菌駒打ち体験と実践管理体験。事前予約制

天王森泉公園のホームページ  
<https://www.tennoumori.net>



天王森泉公園





### 竹の春（竹林の風情） ■初秋の竹林を見！竹の春を実感しよう

春に竹の子が地上に出現し、初秋の今、新竹の葉が青々と茂り、古竹の紅葉色と隣り合わせの竹林が見どころ。新竹のいまを「竹の春」という。



### シイタケ栽培 ■シイタケ！晩秋の収穫楽しみ！

猛暑続きの今年・・・遮光ネット・散水・天地返し、等々基本作業など施しはしたが、キノコ専門家の話では暑さがダメージの様でした。我が「きのこ苑」吉か凶か？



### 新そばまつり(中止) ■古民家で今年の新そば食べれない。

そば打ち迷人も更に迷い道！北海道から新そば粉情報が届きましたが、残念ながら古民家そば処からお届けできず！！

By:大西

### 収穫時期が早い、古代米の稲刈りが始まりました

9/27 遅咲きの彼岸花が見ごろを迎えた頃、待望の稲刈りが始まりました。5月の田植え以降、日照・気温とも必ずしも順調ではありませんでしたが、梅雨の長雨にも耐え、その後真夏の太陽を燦々と浴びた天然無農薬の稲たちは無事に育ち、黄金色の絨毯(じゅうたん)となって今日を迎えることができました。行事の「稲刈り体験」はコロナ対策の為、中止になり、ボランティアとその家族が協力して稲刈り行いました。



この田んぼ、近隣の農家の方から大事な農地の一部をお借りしているもので、公園の運営管理のかたわら毎年古代米ともち米を育てています。稲作は一見田植えをしたら、“はいおしまい”のように思えますが、いやいや、雑草取りや水量・肥料の管理など、やる事は多いのです。また春先は田んぼに水を引くため、周辺稲作農家の方々と一緒に川から引く水の準備も行います。まさに「我田引水」なのです。この言葉元々は田植え前の大事なこと、という意味もあるのかも知れませんね(笑)。なんやかや約半年間かけて育てたこれらのお米、今年も皆さまにお届け出来たら・・・と秋晴れの空を見上げて思います。

by:清本



### 和泉川鍋谷橋下流域の生きもの調査

天王森泉公園では、毎年、境川遊水地公園と共催で近くを流れる和泉川に入って、生き物を探し捕まえて観察をする楽しいイベント「水辺で遊ぼう 生き物観察会」を開催していました。今年は、コロナ対策の為、中止になりました。しかし、調査は必要の為、公園で8月2日に調査を行いました。

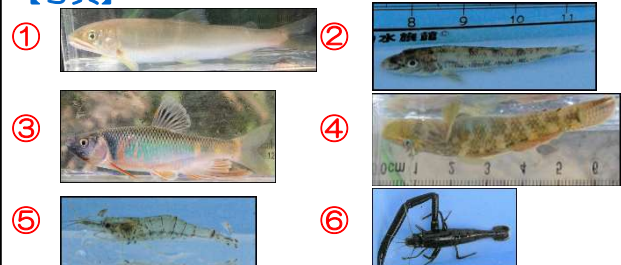
#### 【確認種類】

【魚類】コイ、①アユ、②カマツカ、③オイカワ、タモロコ、モツゴ、④ボウズハゼ、シマヨシノボリ、カワムツ、アブラハヤ、旧トウヨシノボリ類、  
【甲殻類】カワリヌマエビ属、アメリカザリガニ、⑤スズエビ、⑥ヒラテテナガエビ、チリメンカワナ、モクズガニ

【水中昆虫】コオニヤンマ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、アメンボウ、シマトビゲラ

※調査した生き物は調査後、川に戻しました。

#### 【写真】



### 天王森泉館利用案内

開館時間： 午前 9 時～午後 5 時

休館日： 毎月第 2・4 火曜日（祝日は翌日）

年末・年始（12 月 29～1 月 3 日）

問合せ先：天王森泉公園事務局 045-804-5133

館内施設の利用：利用日の 2 ヶ月前より申込受付